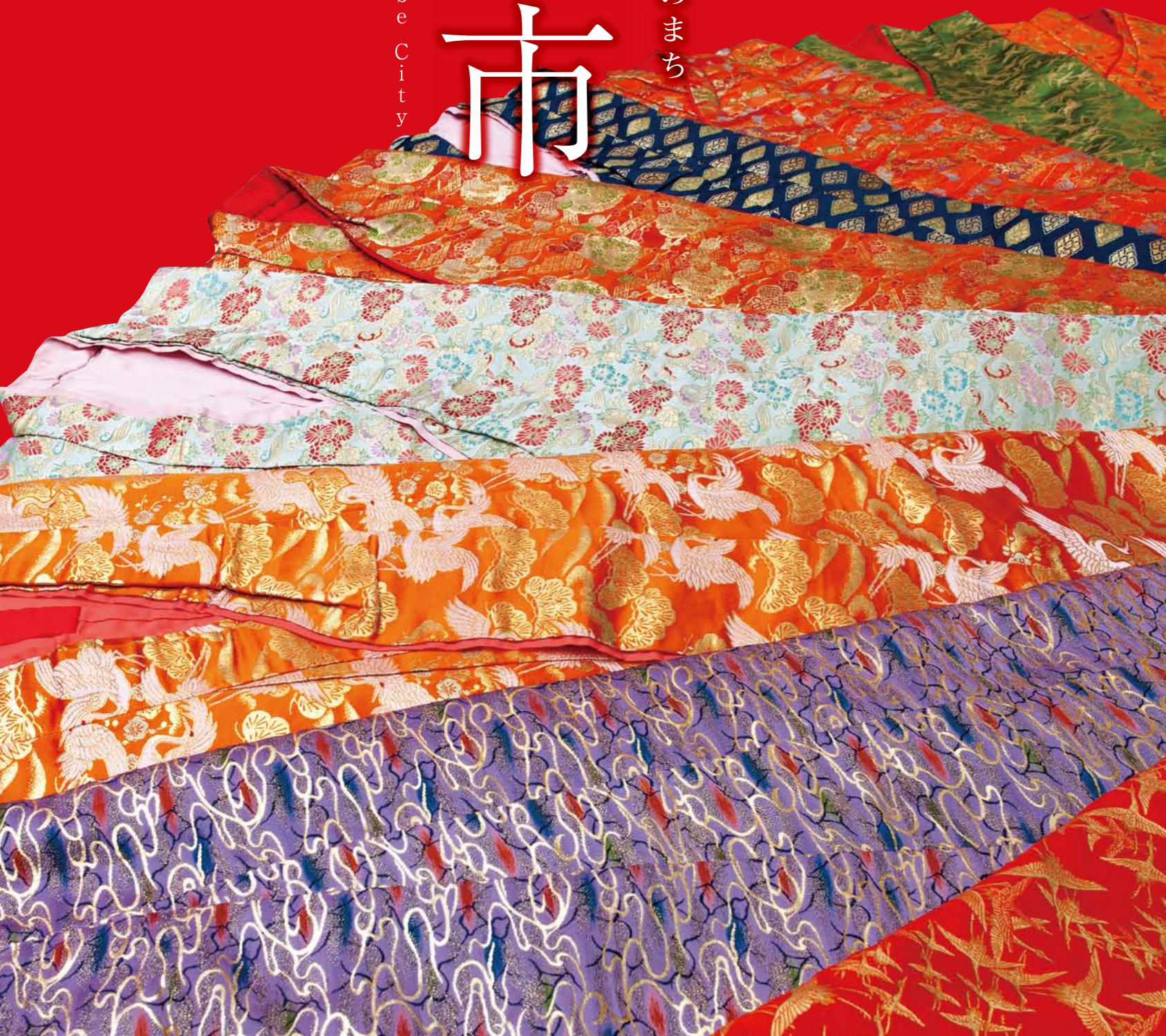


田辺市

Tanabe City

自然豊かな歴史と伝統のまち



ずっとそこにあった魅力を、
改めて発見し、丁寧に伝える。
そして、ずっとそこにあったはずなのに、
気づかれなかった魅力も、
ひとつひとつ発見して、丁寧に伝える。
田辺市の魅力は、
発見すればするほど増えていく。
ここに暮らすひとたちも、
日本中から訪れるひとたちも、
田辺市の魅力を感じるたび、
ポジティブな気分がプラスされる。
ますます田辺市が元気になる。



田辺市勢要覧

Tanabe City Municipal Guidebook
平成26年7月

発行 和歌山県田辺市
〒646-8545 和歌山県田辺市新屋敷町1番地
TEL.0739(22)5300
<http://www.city.tanabe.lg.jp/>



世界遺産のあるまち、 田辺市

CONTENTS

歴史・文化

- 1 世界遺産のあるまち、田辺市
- 3 熊野本宮大社への道のり
- 5 熊野信仰の拠点「熊野本宮大社」
- 7 田辺市の宝物
- 9 ふるさと歳時記
- 11 田辺ゆかりの偉人たち

産業

- 13 おもてなしの観光を目指す
- 15 海、山、川でアウトドア体験
- 17 ひとの手とモノづくり
- 19 まちを元気に まちづくりの人々
- 23 田辺グルメを召し上げ
- 25 梅を守り、価値を高める
- 27 紀州田辺のみかん
- 29 強く美しい紀州材
- 30 豊かな黒潮の恵み

教育

- 31 学社融合の推進と充実を

福祉

- 33 支え合い、つながる地域福祉

環境整備

- 35 暮らしやすさと安全のために

防災

- 37 災害に強いまちづくり

議会

- 39 より良い市政を進めるために

41 市長あいさつ

- 42 田辺市の市章/田辺市民憲章/
田辺市の木・花・鳥

- 43 主な年間イベント/田辺市シティマップ



田辺市の概要

平成17年5月1日、5市町村の合併により誕生した田辺市は、紀伊半島の南西側、和歌山県の南部に位置する近畿最大の行政区域を有するまちです。

みなべ町、印南町、日高川町、有田川町、奈良県野迫川村・十津川村、新宮市、古座川町、上富田町、白浜町にそれぞれ隣接しており、西よりの海岸部に都市的地域を形成、そこから東向きに森林が大半を占める中山間地域が広がっています。主な水系としては日高川水系、富田川水系、日置川水系、熊野川水系の4水系を抱える広大な圏域です。

気候は海岸部の温暖多雨な太平洋型気候から山間地における内陸型の気候まで広範囲にわたっています。

また、平成16年7月7日、「紀伊山地の霊場と参詣道」がユネスコの世界遺産として登録されました。和歌山県・奈良県・三重県にまたがる3つの霊場（熊野三山、高野山、吉野・大峯）とそこに至る参詣道（熊野参詣道・高野山町石道・大峯奥駈道）及びそれらを取り巻く文化的景観が主役です。田辺市は、この世界遺産の中心に位置する市です。

Tanabe City was created on May 1, 2005 with the merger of five municipalities. Located in southern Wakayama Prefecture on the southwest side of the Kii Peninsula, it comprises the largest administrative area in the Kinki Region. On July 7, 2004, the "Sacred Sites and Pilgrimage Routes in the Kii Mountain Range" was designated a UNESCO World Heritage Site, with Tanabe City occupying its central area.

総面積：1,026.77km²（東西約45km、南北約46km）

※総面積は、平成25年10月1日現在の、国土地理院の公表値によるものです。

総人口：78,925人 男：37,268人 女：41,657人 世帯数：35,723世帯（平成26年6月末現在）



熊野本宮大社に向けて 縦横に伸びる道のり

平安時代から鎌倉時代にかけて上皇やその后などの女院が、熊野参詣の旅をしました。この旅のことを熊野御幸と呼んでいます。「御幸」とは、上皇や法皇、女院の外出のことで、天皇の場合は「行幸」といいます。

907年の宇多法皇の御幸から987年の花園法皇、その後、1090年の白河上皇が熊野に御幸して以来、白河・鳥羽・崇徳・後白河・後鳥羽の上皇が参詣を繰り返すことになりました。

また、1217年、後鳥羽上皇と修明門院の御幸には千人近くのお供がついた記録が残されていますが、お供する貴族のお供も含めるとかなりの人数であったと思われます。

京都を出て熊野三山に参拝し、戻るまでの行程は約1か月といわれています。熊野への参詣道には、紀伊路（紀路、伊勢路、小辺路の3つのルート）があり、紀伊路は、田辺で中辺路と大辺路に分かれます。後白河法皇撰による歌謡集（平安時代末期）に「熊野へまいるは紀路と伊勢路のどれ近しどれ遠し 広大慈悲の道なれば紀路も伊勢路も遠からず」という歌が残されています。

藤原為房の「為房卿記」や源師時の「長秋記」、藤原定家の「熊野御幸記」などから代表的なルートをたどると、京都から船で淀川を下り、大阪



堺を経て紀伊半島西岸を海沿いに南下し、田辺へ向かいました。ここからは東へ転じて山中を進み、本宮へ。その後、新宮、那智を経て、再び本宮に戻りました。上皇や女院は、全ての行程を徒歩で行くのではなく、川では船に乗ったり、陸では輿に乗ったりしながら、途中の王子社では相撲や舞を奉納しつつ旅の疲れを癒やしていたようです。参詣道には、熊野権現の御子神を祀る王子社が建立され、道の整備とともに増えていき、藤原定家の記録（1201年）には既に80以上の王子社が記されています。

Between the Heian era (794-1185) and Kamakura era (1185-1333) many retired emperors and their wives embarked from Kyoto for the Kumano pilgrimage. On their one-month journey to pray at the three grand shrines of Hongu, Shingu, and Nachi, these pilgrims would bring along as many as a thousand attendants.

歴史の道、信仰の道 熊野古道の案内人

「熊野本宮語り部の会」会長の坂本勲生さんは、熊野古道が世界遺産に登録される16年前の昭和63年から語り部となりました。現在、「語り部の会」には60歳代の方々を中心に28名のメンバーが登録されています。歴史や文化をはじめ、動植物のことなど、観光客からのあらゆる質問に答えられるように定期的に集まっては勉強を続けています。平成16年の世界遺産登録から、熊野古道を歩く観光客は外国人も含め年々増加しています。「時間ができると訪れたい場所」として何度も訪れる人も多く、熊野古道は、あらゆる人を優しく包み込む不思議な力にあふれた場所といえます。

「素晴らしい自然の中に、祈りの道が今も残されていることに、語り部である私自身がいつも感動をもらっています。語り部の役割は、単に熊野古道の歴史や伝説を説明するだけではありません。何よりも大切なのは、観光客と地元の人がコミュニケーションをとることです。説明をしながら歩く道すがら、茶摘みをする人や農作業をしている人たちと会話を楽しんでもらうようにしています。地元の人が地元の言

葉で、地元の食文化や情報を楽しそうに話すこと。これが最高の、おもてなしだと思っております。」と坂本さんは言います。

文化、伝統は、伝え続けなければなくなってしまうもの。坂本さんは、三里小学校の校長を退職後、小学生のボランティアアグリー「ジュニア語り部」を作りました。何度も熊野古道を歩き、自分たちで地図を作り、歴史や文化を勉強して、実際に観光客を案内しているのです。この取組は、近野小学校でもスタートしていて、平成26年度から、田辺市全小中学校による取組に発展しています。



田辺市熊野古道語り部ジュニア 近野小学校 (左) と三里小学校 (右)



熊野本宮語り部の会 会長
さかもと いさお
坂本 勲生 さん

The Kumano Hongu Guide Association has twenty-eight registered guides, mainly in their sixties. It holds periodic study sessions on everything from history and culture to plant and animal life, with a goal of being able to answer all of tourists' questions.



桐唐草双鶴鏡
瑞祥を表す亀や鶴を配し、下方には五三桐の桐唐草文を大きく表した和鏡で、技法から室町時代後期頃の制作といわれています。



鉄湯釜
源頼朝公が奉納したもので、奈良東大寺所蔵の「鉄湯船」に次ぐ日本で二番目に古い釜です。湯立神事に使用していたものと考えられています。



牛王と起請文
本宮神職の各家で取り決めごとを交わした起請文です。冒頭には熊野古来の御札「熊野牛王神符」を貼り付けています。



剣(銘: 上野大掾國益)
密教で山中を駆ける修行の折に護身用のものとして使用したもので、現在でも修験者が護摩法要を営むときに法具として用いています。

人々を惹き付ける熊野信仰の拠点 「熊野本宮大社」



大齋原の大鳥居

熊野三山の一つ、熊野本宮大社は、もと大齋原と呼ばれる、熊野川とその支流の音無川・岩田川が合流する中州に鎮座していましたが、明治22年の大水害によって倒壊流失したため、同24年に現在の場所に遷座しました。御祭神は「熊野十二所権現」と呼ばれる十二柱で、主祭神は「家津美御子大神」です。大齋原のイチイの木に、神が三体の月となって降りたという伝承から、信仰の起源が自然崇拜にあると想像されます。

熊野への参詣で、難行苦行の道のりを終えて、たどり着く熊野本宮大社は、「蘇りの地」「再生の地」として古来より多くの人々が訪れた聖地です。平安時代には都の上皇や法皇、貴族たちの熊野詣でが盛んになり、以降の時代には、老若男女を問わず全てを受け入れる神として知られ、ますます参詣者が増えていき、その様子は「蟻の熊野詣」と表現されるまでになりました。

世界遺産登録された後も、パワースポットとして国内外から観光客が訪れています。

※熊野本宮大社の社殿は、平成7年に国の重要文化財に指定されました。

After a road filled with hardships and difficulties, pilgrims finally arrived at the Kumano Hongu Taisha grand shrine. Since being registered as a UNESCO World Heritage site, it has gained fame as a "power spot" and attracts many visitors from both Japan and abroad.

歴史を刻みながら、 未来に向かって祈る

2000年近い歴史を持つ熊野本宮大社は、熊野三山の一つ。それぞれの神社は時間的な意味合いを持っており、熊野速玉大社は「過去」を表し、過去の自分を見つめ考える場所。熊野那智大社は「現在」。今の自分の立ち位置をしっかりと確認する場所。そして熊野本宮大社は「未来」。未来に向かって祈りをささげる場所であるといわれています。

熊野本宮大社は、地域にとつてどのような存在であり、今後どのように関わっていくのかを、熊野本宮大社の宮司九鬼家隆さんに話を聞いてみました。

「どんなに歴史があろうと、格式が高かろうと、お参りに



熊野本宮大社 宮司 九鬼家隆さん

来てくださる人がいなければ神社としての存在価値はないと思います。様々な人がまわって、まちはできています。地域の人があってこそその熊野本宮大社でありますから、まちのためにもどんどん活用してほしいんです。平成23年の台風で紀南地方が大変な被害に遭ったとき、仕事を休んでも真っ先に駆け付けてくれた若い人たちがたくさんいました。自分たちのまちに深い愛情をもち、行動に移す若者たちが、これからのまちづくりの中心になっていくのでしよう。私は、素晴らしい若者たちに期待し、彼らを精一杯応援していきたいと考えています。」

Kumano Hongu Taisha grand shrine's head priest Mr. Iketaka Kuki asserts that the youth of Hongu hold a deep love for their town, as seen in their volunteer work after the devastating typhoon of 2011. "They are quick to take action, and will surely serve as the core of town planning from this point on."



神門が開いた時、真正面に神殿があるのは全国でも熊野本宮大社のみです。目の前に神様が現れることを意味し「心の門」と呼ばれています。

時を経て、未来に受け継ぐ 田辺市の宝物



たなべじょうすいもん
田辺城水門 市指定史跡

周辺一帯は会津川河口に築かれた田辺城の城下町としてにぎわいました。田辺城は、元和5年(1619年)、浅野氏が築いた湊城の跡に、田辺領主となった安藤直次が築城したといわれています。



じせいち
ユノミネシダ自生地 国指定天然記念物

ユノミネシダは、熱帯及び亜熱帯地方に産する大型の美しいシダで、根茎によって繁殖し、葉の伸び方はウラボシに似て二股に分かれる特徴があります。日本における分布の北限に当たることから、国の天然記念物に指定されるとともに、最初の発見地である湯峯の地名をとって植物名にしたものです。



とうけいじんじやけいだい
闘雞神社境内 県指定史跡

通称「権現さん」と呼ばれ、市民から愛されている闘雞神社は、熊野三山の別宮的存在で熊野信仰の一翼を担っていました。平家物語壇ノ浦合戦の故事によると、源氏平氏の双方から援軍を要請された武蔵坊弁慶の父である熊野別当湛増(熊野水軍)が、どちらに味方をするかの神意を確認するため赤と白の鶏を戦わせ決めたといういわれがあります。



すみよしじんじや しやそう
住吉神社の社叢 (オガタマの木) 県指定天然記念物

住吉神社は、宝永年間(1704~1711年)の勧請といわれる歴史ある神社であり、社殿の背後には県内最大の大きさ(樹高27m、幹周4m)を誇るオガタマの木があります。



たかはらくまのじんじやほんでん
高原熊野神社本殿 県指定有形文化財

正式名称は「熊野神社」で、高原地区の産土神です。樹齢1000年を超える見事な楠の木に包まれたこの社殿は、中辺路沿いでは最も古い神社建築です。



いそまいわかげいせき
磯間岩陰遺跡 国指定史跡

岩陰を利用した墳墓で、5世紀後半から6世紀代のものといわれています。竪穴式石室には田辺湾を根拠地とした漁民の長が、鹿角装鉄剣や釣針、鉢、貝輪などの副葬品で飾られ葬られたといえます。



かみごてんほんかん
上御殿本館 国登録有形文化財

旅館「上御殿」は、江戸時代初めに当時の紀州藩主徳川頼宣公が龍神温泉へ湯治に訪れるために建てられた宿で、現在の建物は、明治18年に再建されたものです。旅館内にある「御成りの間」は、床が一段高く作られ、格式ある雰囲気を持っています。

名称	指定別	所在地等
三栖庵寺塔跡	国史跡	下三栖
高山寺貝塚	国史跡	稲成町(高山寺)
磯間岩陰遺跡	国史跡	磯間
熊野参詣道	国史跡	中辺路町、本宮町
天誅組志士幽閉の倉	県史跡	龍神村小又川
鮎川王子跡	県史跡	鮎川
田辺城水門	市史跡	上屋敷
百間山溪谷	県名勝・天然記念物	熊野
神島	国天然記念物	新庄町
鳥巢半島の泥岩岩脈	国天然記念物	新庄町
オオウナギ生息地	国天然記念物	富田川
栗栖川 亀甲石包層	国天然記念物	中辺路町北郡
ユノミネシダ自生地	国天然記念物	本宮町湯峯
蟾蜍岩	県天然記念物	稲成町
新庄町 奥山の甌穴	県天然記念物	新庄町
野中の一方向	県天然記念物	中辺路町野中
住吉神社の社叢	県天然記念物	鮎川

田辺市の主な文化財

名称	指定別	所在地等
熊野本宮大社社殿	国重要文化財	本宮町本宮(熊野本宮大社)
高原熊野神社本殿	県有形文化財	中辺路町高原
闘雞神社社殿(6棟)	県有形文化財	東陽(闘雞神社)
木造家津御子大神坐像	国重要文化財	本宮町本宮(熊野本宮大社)
速玉大神坐像	国重要文化財	本宮町本宮(熊野本宮大社)
夫須美大神坐像	国重要文化財	本宮町本宮(熊野本宮大社)
附 木造天照大神坐像	国重要文化財	本宮町本宮(熊野本宮大社)
鉄湯釜	国重要文化財	本宮町本宮(熊野本宮大社)
田辺祭	県無形民俗文化財	東陽(闘雞神社)
紀州備長炭製炭技術	県無形民俗文化財	広 域
上野の獅子舞	県無形民俗文化財	下川下
下川上の流れ施餓鬼	県無形民俗文化財	下川上
野中の獅子舞	県無形民俗文化財	中辺路町野中
湯登神事	県無形民俗文化財	本宮町本宮
平治川の長刀踊	県無形民俗文化財	本宮町本宮
カモシカ	国特別天然記念物	紀伊山地
上御殿本館	国登録有形文化財	龍神村龍神



かしま
神島 国指定天然記念物

田辺湾に浮かぶ神島は「おやま」と「こやま」の2島からなり、古くから森林が保全され、ハカマカズラをはじめとする暖地性の貴重な動植物が数多く生息しています。南方熊楠翁が生物の宝庫として調査・研究、保全活動を行い、昭和天皇に御進講したことも知られ、それを記念して詠んだ歌碑もあります。
※森林保全のため上陸禁止です。



てんじんざき
天神崎

日本のナショナル・トラスト運動の先駆けとなった天神崎は、干潮時には13haもの平らな岩礁が姿を現す自然の宝庫です。背後の丘陵地には海岸林や湿地帯があり、カスミサンショウウオなど珍しい動植物が見られます。

とりのすはんとう ていがんがんみやく
鳥巢半島の泥岩岩脈 国指定天然記念物

鳥ノ巢半島の南西海岸に干潮時、約1.5kmもの岩脈が走ります。地殻変動でできた砂岩の割れ目に、液状化した泥岩層が噴出して固まったものが泥岩岩脈で、地質学的にも貴重なものとなっています。

田辺市は、平成16年に「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産登録された熊野古道、熊野本宮大社をはじめとする、自然、歴史、文化的資源の宝庫です。

特に世界遺産には、霊場と参詣道だけでなく、その周辺に広がる森林、農耕地、集落など人の営みにより培われてきた文化的景観も含まれています。

田辺市では、これらの景観を含めた数々の遺産を守っていくために、「田辺市歴史文化的景観保全条例」を制定しました。

昔から山や木、巨石、風や雷をも神と崇め祈りをささげてきたからこそ、有形、無形を問わず、多くの自然、文化財などが大切に守り継がれてきたのです。悠久の歴史に想像力がもたらせながら史跡や文化財巡りでまちを歩くと、更に田辺市の魅力を感じることができます。

Tanabe's many tangible and intangible cultural assets are rooted in the nature and traditions of the region, and have been cherished and protected to this day. Tanabe's charm is even more poignant when walking around its cultural sites and immersing one's mind in their rich histories.



The annual festival of the Kumano Hongu Taisha grand shrine commences on April 13th with rites of purification at the Yu-No-Mine Onsen (Hot Spring). A procession of forty to fifty people then embarks for the shrine, singing sacred songs to the rhythm of taiko drums.

ふるさと 歳時記

熊野本宮大社の湯登神事

熊野本宮大社の例大祭は、4月13日の「湯登神事」から始まります。宮司以下の神職・氏子・伶人（楽人）・氏子総代・稚児（2、3歳の男児）ら総勢40～50人が列を成して湯の峰温泉を出発し、太鼓に合わせて神歌を歌いながら熊野本宮大社を目指します。熊野の神は稚児の頭に宿るとされており、神事の間以外は稚児を地面に降ろしてはならず、移動の際はウマ役の父親が肩車をします。（県の無形民俗文化財指定）

450年以上守り伝えてきた祭りを絶やさないう、笠鉦や衣笠を持つ各町と田辺商工会議所などが2002年に「田辺笠鉦協賛会」を設立しました。地域の人を支え伝統をつないでいる田辺祭は、地域の団結とともに新しい観光資源としての魅力を放っています。

In order to preserve Tanabe Festival's 450 years of continued celebration, Tanabe's eight former castle towns (all participants in the festival) and the Chamber of Commerce established the Tanabe Kasahoko Sponsorship Association in 2002. Today the tradition of the Tanabe Festival lives on with the support of locals, and serves to unify the community while bringing in tourism.



まちを彩る時代絵巻

田辺祭

県の無形民俗文化財である田辺祭は闘雞神社の祭礼で、慶長5年（1600年）浅野幸長が紀伊領主に封ぜられ、重臣浅野左衛門佐が田辺に配されたときに、新熊野権現と祭礼の再興をしたと伝えられています。その後、元和5年（1619年）徳川頼宣が新たに紀州藩主となり、安藤直次が田辺領主となって城下町の整備とともに祭典も整えられ、大祭となりました。

田辺祭が行われるのは7月24日、25日の2日間。うだるような暑さの中、各町（旧城下の8つの商人町）の笠鉦が旧市内を曳き回るその様子は、京都の祇園祭に似ているといわれています。

祭りには「お旅所勤め」「住矢の走り」「会津橋曳き揃え」「曳き別れ」「七度半の使い」「流鏝馬式」といった見どころも多く、県内外から多くの見物客が訪れます。



杵荒神社の三番叟

毎年10月上旬、中辺路町栗栖川の杵荒神社境内で安産、縁結び、五穀豊穡を祈願し、3日間奉納芝居を行います。江戸時代中期から約300年の伝統が受け継がれており、現在も地区の青年が中心となって小学生たちも加わり保存、継承しています。（市の無形文化財指定）



上野の獅子舞

下川下にある春日神社の秋の例祭に奉納される獅子舞の歴史は古く、室町時代まで遡ります。毎年11月3日に行われ、五穀豊穡と地域の安全を祈願して舞われるこの獅子舞は、「上野獅子舞保存会」によって継承されています。（県の無形民俗文化財指定）



小家神楽

龍神村甲斐ノ川にある荒島神社で、毎年11月3日に行われる一年間の豊年満作、家内安全、交通安全などの感謝の秋祭りに奉納される神楽です。祭りの最初に福井、甲斐ノ川、小家の3地区が一度に獅子頭合わせを行い、神輿の鬨ぎあいや獅子舞を舞うなど、見事な神楽が演じられます。（市の無形民俗文化財指定）



野中の獅子舞

毎年1月3日と11月3日に中辺路町の近野神社と継根王子へ奉納される獅子舞です。南北朝時代の初期、近露の野長瀬一族が、大塔宮護良親王の御軍の士気を高める出陣の舞としてこの獅子舞を演舞したと伝えられています。今日の獅子舞は、江戸時代末期に土地の庄屋が従来の古座流の舞に新しい流儀を取り入れて完成したといわれています。（県の無形民俗文化財指定）



芳養八幡神社の秋祭

平安時代から続く歴史ある神社で、毎年11月2日、3日にかけて行われる祭礼では、八幡神の勧請を模した神輿渡御が行われるほか、見どころの流鏝馬や馬駈神事では、氏子や観衆の喝采が響きます。また宮入の時などで歌われる馬子歌は情趣に富んでいます。（県の無形民俗文化財指定）

合気道の開祖
植芝 盛平
うえしば もりへい
1883年-1969年



The practice of "aikido," founded by Morihei Ueshiba, has spread throughout Japan and onto many areas of the world, especially Europe.

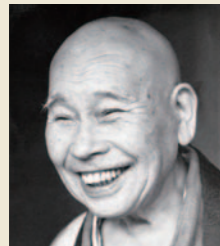
「合気道の創始者である植芝盛平翁は、私にとって神様のような存在です。」合気道を始めて65年、田辺市内で合気道場を主宰し、その普及に努める五味田聖二さんが、植芝翁に初めて会ったのは小学4年生のときだと言います。「当時、身体の弱かった私を心配して親が道場に連れてきたのですが、正式に道場生になったのは中学1年生のときでした。大先生（植芝翁）は、私に技術よりも心の修行、つまり精神の修行が大切であることを教えてくれました。」



植芝盛平翁顕彰会 理事長
五味田 聖二 さん

合気道の理念は、武道を通して多くの人に出会い、「和合」を尽くすこと。田辺市内の公園にある両手を広げた植芝翁の銅像は、「技と共に「宇宙の和合精神」を表現しているといわれ、植芝翁が創始した合気道は、日本はもとよりヨーロッパを中心に世界各地に広がっています。」

山本 玄峰（やまもと げんぼう）1866年-1961年



本宮町生まれで、24歳の時に失明後、四国八十八箇所の霊場巡りに出ました。全国を回って修行を続け、白隠慧鶴の古刹を再興します。45年、鈴木貫太郎首相に終戦を勧め、「象徴天皇制」を提案するなど、鈴木首相の相談役を務めました。

Genpo Yamamoto, who became blind at the age of 24, served as an advisor to Prime Minister Suzuki, recommending ending the war in 1945.

脇村 義太郎（わきむら よしたろう）1900年-1997年



田辺市生まれで、昭和から平成の経済学者であり、東京大学名誉教授でもあった脇村氏は海運、保険、石油などの世界経済や経営史を研究しました。財閥解体、海運業界再編など数多くの産業政策に参画し、'88年から'94年まで日本学士院長を務めました。

Yoshitaro Wakamura, a scholar of economics in the Showa (1926-1989) and Heisei (1989-present) eras, was a professor emeritus at Tokyo University.

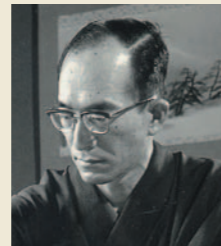
片山 哲（かたやま てつ）1887年-1978年



田辺市生まれで、東京帝国大学法学部独法科卒業、弁護士となります。社会民衆党の結成に参加し、書記長に就任します。'30年、衆議院議員に初当選し、以後、当選12回を数えます。戦後日本社会党結成に参加し、'47年、内閣総理大臣に就任。'63年に政界を引退しました。

Attorney Tetsu Katayama was first elected to the House of Representatives in 1930, and went on to serve as prime minister in 1947.

高川 格（たかがわ かく）1915年-1986年



田辺市生まれで、本因坊戦9連覇の功績により名誉本因坊として「高川秀格」と号し、後に二十二世本因坊を贈られました。「流水不争先」を信条とする昭和を代表する名棋士です。'74年に紫綬褒章、'85年に勲三等旭日中綬章など多くの受賞、褒賞を得ました。

A renowned master of the game of "igo," Kaku Takagawa received the Purple Medal of Honor in addition to many other awards.

小川 琢治（おがわ たくじ）1870年-1941年



田辺藩儒学者・浅井家に生まれました。地学の研究を志して、日本各地を調査し、日本列島の地質二重構造説、日本アルプスの低地水河存在説などを発表します。'26年、帝国学士院会員に任命されました。湯川秀樹、小川芳樹、貝塚茂樹らの父です。

Takuji Ogawa carried out research in geosciences throughout Japan, and published many treatises.

野長瀬 晩花（のながせ ばんか）1889年-1964年



中辺路町近露生まれで、谷口香嶽に師事しました。その後、官展に反する姿勢を示し、個展などで作品を発表します。'18年には土田麦徳らと国画創作協会を創設し、日本画壇に新風を吹き込みました。また、信州の画家、詩人らと白炎社を結成し、芸術文化運動に貢献しました。

The painter Banka Nonagase blew fresh air into the Japanese art scene.

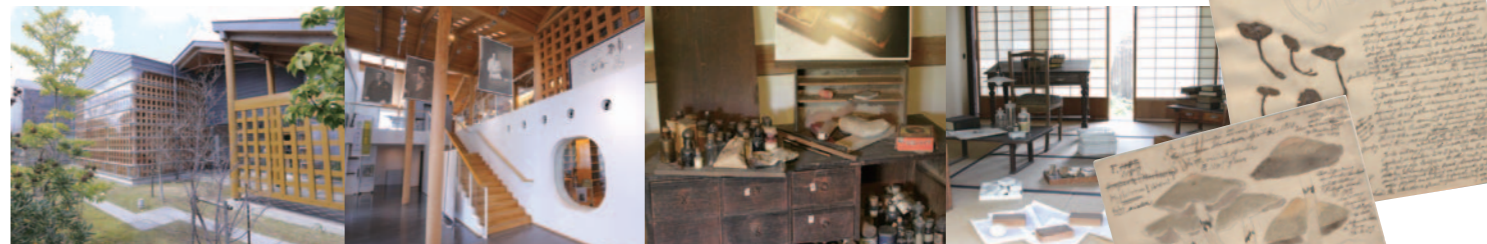
田辺ゆかりの
偉人たち

世界的な博物学者
南方 熊楠
みなかた くまくす
1867年-1941年



Kumagusu Minakata, Wakayama Prefecture's renowned naturalist and folklorist, spent the latter half of his life in Tanabe. He published many dissertations of his studies, and began using the word "ecology" long before others. He also took measures to protect the environment.

和歌山県が生んだ博物学・民俗学の巨星「南方熊楠」は、東京大学予備門退学後、アメリカ・キューバ・イギリスに遊学、数多くの論文を発表しました。「ネイチャー」掲載の論文数では、いまだに日本人で彼の右に出る者はいません。特に変形菌（粘菌）の研究は有名で、彼の名前のついた「ミナカテラ・ロンギフィラ」があります。今から100年前に「エコロジー（エコロジ）」という言葉を使い、神社林伐採による生態系破壊の危機に対して反対運動に奔走し、自然環境を守りました。「継桜王子・野中の一方杉」をはじめ、熊野古道には今も熊楠ゆかりの神社や神社林が点在しています。



国立科学博物館蔵

南方熊楠顕彰館
南方熊楠邸

「1867年、和歌山市に生まれた南方熊楠翁は、後半生を田辺で過ごしました。熊楠翁の死後、遺族によって邸宅（南方熊楠邸）や資料は保存されてきましたが、平成12年に長女・文枝さんが亡くなり、その遺志によってそれらは田辺市に寄贈されました。平成18年、旧邸の隣に南方熊楠顕彰館が開館。熊楠翁が遺した2万5千点以上の蔵書、資料を保存、研究するとともに、熊楠や、熊楠のまち田辺の情報を発信しています。」

また、熊楠翁が研究の場とした邸宅は、熊楠存命時の状態に復原し、庭とともに公開しており、往時の雰囲気を偲ぶことができます。



南方熊楠顕彰館 館長
濱岸 宏一 さん

菌類のうち、キノコについても多くの努力を費やしました。乾燥標本だけでなく、彩色図に専門的な記載文を付けたものを約4千枚も作成しました。



龍神温泉



湯の峰温泉

まちの魅力を掘り起こし、 おもてなしにあふれた観光を目指す

田辺市観光センター
JR紀伊田辺駅の東側に位置し、和歌山県内全域の観光パンフレット等を約100種類常設しているほか、英語対応可能なスタッフが常駐し、各種交通案内、熊野古道の案内、各種イベントの案内等、紀南観光の各種相談に応えています。

田辺市は、神秘的で奥深い森林や渓谷、世界遺産に登録された熊野古道や熊野本宮大社に代表される史跡、そして日本三美人の湯の一つである龍神温泉や日本最古の湯といわれる湯の峰温泉といった秘湯があります。また、自然環境保全の象徴である天神崎や扇ヶ浜海水浴場など、人々の心と身体を癒やす自然と文化にあふれたまちです。

観光情報発信の拠点として、JR紀伊田辺駅東側に建設された「田辺市観光センター」や熊野本宮大社前に建設された「世界遺産熊野本宮館」、熊野の聖域への入り口といわれている滝尻王子社の向かいにある「熊野古道館」には、大きな期待が寄せられているところと見られます。また、観光客へのおもてなしと、その満足度、もう一度訪れたいと思ってもらえるような観光地を目指し、人材の育成にも更に力を入れて取り組んでいます。世界遺産登録以降、国内外から観



田辺市観光センター（外観）

光客が増加。多様化する旅行者のニーズにきめ細かい対応ができるよう、旅のコンシェルジュの役割を持つ「田辺市熊野ツーリズムビューロー」が着地型観光事業に取り組んでいます。さらに、市内各地域の観光協会との連携により、それぞれの地域の特性を生かした個性的な観光地づくりや観光資源の掘り起こし、新たな旅行商品の開発など、市民の共感と協力を得ながら活発な活動が行われています。

また、田辺市語り部・ガイド団体等連絡協議会では、各組織間における連携・強化をより一層推進し、「おもてなし」の充実をはじめとして、豊かな観光資源を存分に活用できるよう、様々な取組とPR活動が進められています。

※コンシェルジュとは、来訪者の様々な相談や要望に応え、それぞれに合った提案をするサービスです。

Tanabe is a city overflowing with culture and nature—a place that soothes both mind and body. It features mystical forests and valleys, Ogigahama Beach, Tenjinzaki Cape, and other scenic places. Its onsen (hot spring) include Yu-No-Mine, Japan's oldest known onsen, and Ryujin, one of Japan's three beautifying onsen. Among its historical sites are the Kumano Hongu Taisha grand shrine and the UNESCO World Heritage Registered Kumano Kodo Pilgrimage Route.



世界遺産 熊野本宮館
熊野本宮大社や旧社地「大斎原」を望む地にあります。観光情報や地域情報を発信する拠点としての役割を担っており、248席の多目的ホール、展示スペース、図書コーナーなどもあります。



熊野古道館
中辺路町内の12の王子社にちなんだ12角形の建物が目印です。熊野古道中辺路の観光情報の拠点で、熊野の聖域への入り口、滝尻王子の向かいにあります。



海、山川でアウトドア体験



きらめく太陽と海

平成17年にオープンした「田辺扇ヶ浜海水浴場」は、砂浜が扇形をしているところから、その名称が付いたファミリー向けのビーチです。JR紀伊田辺駅から徒歩約10分、南紀田辺インターチェンジから車で約10分の場所に位置し、すぐ近くには400台収容の市営駐車場もある利便性から、毎年多くの海水浴客でにぎわいます。

また、ビーチバレー、フリースタイルフェスタなどスポーツイベントも多彩に開催されるほか、周辺には、黒潮の恩恵を受けた釣りのポイントが多数あり、四季を通じて磯釣りや船釣りなども存分に楽しめます。

緑の中で風と遊ぶ

近年、ハイキングやトレッキングを目的とした観光客が急増しています。歴史をたどりながら熊野古道を歩く人や、季節の移り変わりを楽しもうと護摩壇山を訪れる人、キャンプやバンガローで宿泊し、温泉を堪能する人など様々。一人旅はもちろん、日常とは異なる風景、新鮮な空気と自然に包まれる心地良さを家族連れやグループでも楽しむことができます。

また、地域の約9割が森林であることから、軽い山歩きは特に人気で、里山を歩くと、地元の人との会話や宿泊先でのおもてなしなどの様々なコミュニケーションも魅力となり、リピーターが多いのが特徴です。

清流を満喫

豊かな森林や渓谷が自慢の田辺市には、川のレジャーの楽しみも豊富です。清流でしか生息しない鮎やアマゴ釣りをはじめ、カヌーや滝遊び、川の中の天然プールでの水遊びのほか、マイナスイオンをたっぷり受ける体験型レジャーの人气が年々上昇しています。小さな子どもから高齢者まで年齢を問わず楽しめるのが川レジャーの特徴で、無理なくそれぞれのペースで自然を相手に遊ぶことができます。田辺市内を流れる熊野川や日高川、日置川、富田川そして左会津川などは、多くの人の癒やしの場として親しまれています。



ビーチバレー大会

Opened in 2005, Tanabe Ogigahama Beach hosts various sports events such as beach soccer and beach volleyball.



川湯キャンプ場 (川湯野営場 木魂の里)

Ninety percent of Tanabe's area is covered in forests, so walking in the mountains is a popular pastime. Pleasant conversation with locals and the warm hospitality of lodgings draws many visitors back for repeated stays.



護摩壇山の紅葉

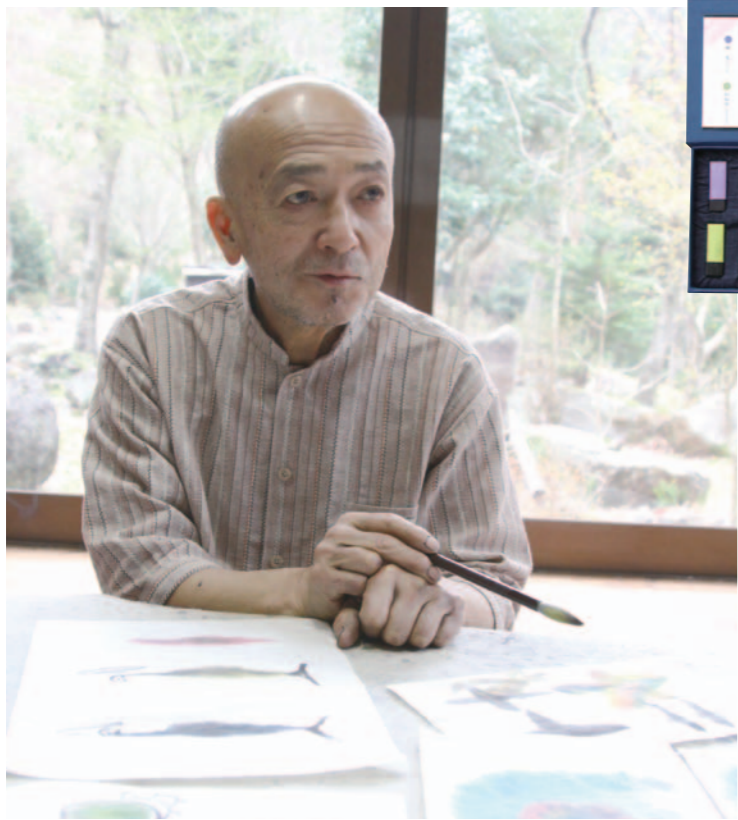


鮎釣り

River sports and leisure are becoming increasingly popular and include ayu and amago fishing (fish found only in clear streams), swimming, canoeing, and playing around waterfalls.



手作りカヌー



松煙墨の歴史は古く、飛鳥時代に中国から日本にもたらされたといわれています。江戸時代以降、各地で松煙による造墨が盛んに行われましたが、近代になるとコストの安い鉱物油が使われはじめ、昭和30年代には途絶えてしまいました。和歌山県でも200軒ほどの業者がいましたが過酷な労働に加えて松材が入手困難になり、同じ頃途絶えてしまいました。◀枯れて死んでしまったかのような松を割ると、脂をたっぷり含んだ赤身が姿を現します。

"Sho-en-boku" is a type of ink stick produced from painstaking labor using pine soot. Thought to have come from China in the Asuka era (approx. 538-710), this is the only place in Japan that it is produced.

松煙

ほりいげ まさお
堀池 雅夫さん

日本でただ一人「幻の墨」を昔ながらの製法で作りに続けているのは、鮎川で工房を営む堀池雅夫さんです。自然災害等で折れたり枯れたりしたアカマツを10年以上置いておくと、周りの部分は白く腐って、脂の多い赤身だけになります。それを小割りにして不完全燃焼で燃やして煤を取っていきまます。小さな炎でゆつくりと燃やすため、5分おきに松をくべ足すのですが、500kgの松を1日8時間、計100時間ほど燃やしてようやく10kgの煤が取

れるという大変な作業です。集めた煤に膠を少しずつ加えながら乳鉢に入れて丁寧練り込み、乾燥させて墨が完成するまで約半年間もの時間を要する貴重な墨が「松煙墨」です。「松煙墨」は何と言っても、その美しい滲みと青みを帯びた黒い色にあり、書道家だけでなく芸術家にも愛用者が多くいます。堀池さんは顔料を混ぜて色を付けた墨「彩煙墨」を作るなど、伝統を守りながら新たな取組にも挑戦しています。

「常に高品質な世界一の炭を作るのが、私たち炭焼き職人の仕事です。」胸を張ってそう言うのは、秋津川にある紀州備長炭記念公園内の窯で炭を作る職人さんたち。紀南地方の山間部で行われている紀州備長炭づくりは、樹齢20〜40年のウバメガシの原木を切り出し「木ごしらえ」という作業から始まります。これは、曲がったウバメガシをまっすぐにする作業で、高品質な備長炭づくりのために欠かせない工程です。奥の方から窯に詰めた後、窯口で火を焚き、煙の色が変わるまで3〜5日ほど焚いて口を塞ぎ、220度〜650度ほどの温度で、6〜9日間かけてしっかりと炭化させていきます。その後、窯口を



江戸時代の元禄年間に備中屋長左衛門が、秋津川で焼かれていた白炭に「備長炭」と名付け、売り出しました。今では田辺市の特産品となっています。

紀州備長炭

In the Edo era (1603-1868), Bitchuya Chozaemon started selling a white charcoal produced in the Akizugawa area. He named it "binchotan," and it has been a special product of Tanabe ever since.



左から
たきじり 滝尻 哲雄さん
みやもと 有市さん
おもと 宮本 康寛さん
いしどや 石戸谷 光さん

少しづつ開けて空気を送り、じっくり温度を上げていき、精錬をかけます。「黒糖を焼いたような甘い匂い」のときは良い出来、きつい匂いときは不出来、他にもいろいろあるんや。このとき匂いで炭の出来上がりが分かる。」と言います。炭化した原木を窯口近くに寄せ、かき出して、空気にあてて一気に1200度近くまで高めてから引き出します。そこに土と灰を混ぜた消し粉「素灰」をかけて空気を遮断し、消火することで焼き締めます。職人が約15日かけて作り上げた紀州備長炭は、世界に誇る高品質な炭として知られています。古くから受け継がれてきたこの製炭技術は、昭和49年、県の無形民俗文化財に指定されました。



ひもの手芸ぐら

皆地笠

しば やすお
芝 安男さん

和歌山県知事指定伝統工芸品に認定されている「皆地笠」を作るのは、本宮町皆地に暮らす芝安男さんただ一人です。その昔、この地方に隠れ住んだ平家の公達が、香り高い檜を使って笠を編み出し、熊野詣での人々に広く愛用されるようになった

といわれています。いつからか産地の名前をとって「皆地笠」と呼ばれるようになりました。山に入り、節のない樹齢60年以上の檜を見極め伐採した後、木が柔らかいうちに「材」にしていく作業は、大変根気のいる仕事で、1つの笠を



芝さんが作る笠は、檜の脂分が出て雨が降ってもそれををはくため、修行中の行者が使う「行者笠」や、僧侶が使う「阿蘭梨笠」などの注文も全国から寄せられます。時を経てあめ色に変化しても機能性はそのままだといえます。

"Minachigasa" is a conical hat made with a lubricant from cypress trees that repels rain. Orders for this hat are coming in from all over Japan.

後継者がいないのは本当に残念ですが、今でも軽さと雨をはじく特性から川釣りの人や農家の人たちに重宝されています。芝さんは子どもの頃から父親の仕事を見て育ち、その作り方を覚えたといえます。「昔は他にも8軒ぐらい笠を作る家もあったけど、今では私だけになりました。大阪や奈良から弟子入りを志願してくる人もいきましたが、作り方の本があるわけでもなく、いい檜の選び方が書いてある物もないですからね。途中で断念していきましたね。」



住民の手による、 農業を軸とした地域づくり

移転改築した上秋津小学校の旧校舎を生かし、都市と農村の交流施設「秋津野ガルテン」が誕生したのは平成20年。ここを拠点とした新しい農村の形が全国から注目されています。

上秋津地区は、江戸時代には明治時代には柑橘栽培が既に始まっていた農村地域で、農業が地域を支えてきたという歴史があります。

昭和32年、上秋津村当時、村有財産である土地、山林を公共のために有効活用することを目的として、「社団法人上秋津愛郷会」が誕生。得られた収益は、教育の振興、住民福祉、環境保全に使うという独自の運営を重ねてきました。「農業が衰退すれば地域も衰退する」という思いから、幾たびもの農業危機も地域で知恵を出し、乗り越えてきたのです。

その後、都会にはない、香り高い農村文化社会の実現を図るため、平成6年に地域づくり塾「秋津野塾」を結成。子どもを主役にした様々なイベントを開催し、地域内外の交流を活性化してきました。

平成8年には農林水産省表彰事業「ゆたかな地域づくり表彰天皇杯」を受賞し、地域全体が更に団結・活性化しています。

農村地域でありながら自然環境、住環境、利便性の良さから年々人口が増加しています。今後、どのように地域づくりを進めていくか、行政や様々な組織の協力の下、マスタープラン作成のためにアンケート調査を実施するなど、「住民のための地域づくり」を徹底して考えていく方法を行っています。

そして、「将来を見通した地域づくりのためには人材育成が基礎であり、そのためにも財源を確保していくこと」「農業を軸として地域の価値を創り、そこに暮らす人を減らさない」といった目標を掲げつつ、新たな事業として太陽光発電の設置と売電による、エネルギーの地産地消にも取り組んでいます。安心して暮らせる地域づくりを住民自らが考え、行政と協力して実行していくことこそ「地域の活性化」であることを上秋津の住民は、行動で見せてくれています。

まちづくりの元気に まぢがひらの人々



秋津野ガルテンには「宿泊棟」、スローフードと地産地消にこだわった農家レストラン「みかん畑」、お菓子体験工房「バレンシア畑」などがあります。

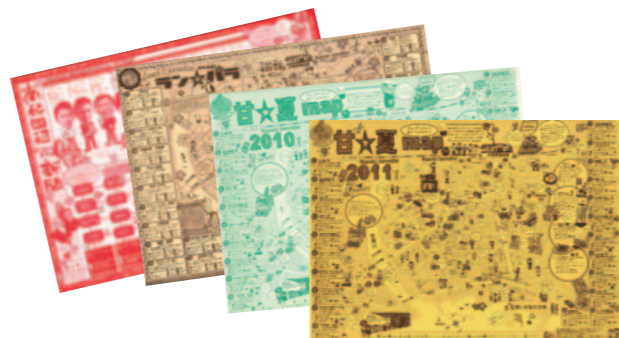
農家レストラン「みかん畑」

The former Kamiakizu Elementary School building has been re-engineered into "Akitsu-No-Garuten." The new facility offers lodging, a rural farm-themed restaurant advocating "slow food," and opportunities to experience Japanese mandarin orange harvesting and sweets making. It has received recognition from all over Japan.



あがら☆たなべ調査隊
隊長 池田 周作さん

「かつてのまちのにぎわいを少しでも取り戻せるように、平成20年に『あがら☆たなべ調査隊』を結成し、スイーツ、麺、ランチといったテーマ別に手作りマップを作りました。まち中を歩いて、いろんなお店をもっと楽しんでもらおうという企画です。調査隊のメンバーは、それぞれ仕事を持っていながらボランティアで活動してくれる人ばかり。その原動力は、何と言っても『田辺が好き！』なんです。」



調査隊員自らが、収集した情報を元に取材、制作まで全て行った手作りマップです。和歌山大学南紀熊野サテライトのスタッフがイラストを描いてくれるなど、様々な人の協力と応援が集まりました。

“agara☆tanabe research-team” is an organization formed in 2008 by young local volunteers. It seeks to increase the liveliness of Tanabe City and spread word of its many charms.

歩いて分かる「まち」の魅力



コンペティション部門では、審査員に映画有識者と映画検定1、2級合格者を迎え、「弁慶グランプリ」「映検審査員賞」を決めます。市民審査による「市民賞」の選定や受賞作品の都内上映なども特徴です。

近野（近露・野中）地域は、世界遺産である熊野古道の滝尻王子から熊野本宮大社までの中間部にあり、古くから熊野詣での宿場町として栄えた地区。そんな近野をもっと知ってもらおうと活動している人たちがいます。

「熊野の観光案内や歴史の紹介ができる休憩所があればと考えていました。ちょうどその頃、日本画家、野長瀬晩花の生家を残そうという話があり、修復整備して、近露観光交流館（ちかの平安の郷かめや）」として平成25年7月にオープンしました。地域の人々と観光客との交流の場となっています。」



高菜の漬物づくりやエコクラフトなどのものづくり体験を観光客が地元の人と一緒にしたり、俳句会に参加したりと、にぎわっています。またIターンの若者たちがジビエ料理に着目し、ビジネスにつながる取組も行っています。

The Chikatsuyu Tourism Salon (Chikano Heian-no-Sato Kameya) is a rest place where local residents share historical and tourist information with visitors. Created to foster exchange between locals and tourists, it is located in the childhood home of the famous painter Banka Nonagase.

地域の人と観光客との交流の場

り、様々なイベントを企画し、実行しています。



ちかの平安の郷推進協議会
会長 久保 智彦さん

映画祭を通じて、交流人口の増加と映画文化の振興を図ることで、田辺市へ来訪された映画関係者と市民とのコミュニケーションが活発になり、それらが地域活性化につながるようにと「田辺・弁慶映画祭」が平成19年10月に初めて開催されました。以来、毎年回を重ねるうちに、商業映画デビューを果たす作品が出るなど、新人映画監督の登竜門となる映画祭として評価が高まっています。

当初、スタッフは地元の有志が大半で、手作り感覚の映画祭でしたが、着実にその内容は濃いものとなり、応募作品数が増加するとともに、品質も向上しているほか、スタッフの人材育成への取組など

も充実してきました。

映画祭実行委員長の中田さんは「子どもからお年寄りまで幅広い年代の方々が映画に興味を持つてくれると嬉しいです。1年を通して公民館やいろんな施設で映画の上映会をするなどして大きく広げていき、多くの映画ファンを田辺市に集めたいですね。」と話します。

文化的事業はすぐに経済効果に結び付くものではありませんが、経済以上の効果が映画祭にはあります。

文化的意識の向上は、やがて大きなうねりを作り、まちを活性化していく力を生み出していくことになりそうです。

The Tanabe Benkei Film Festival has been held every year since 2007. This highly esteemed festival has even been host to commercial film debuts.

映画祭を通して地域の文化的活性化を



田辺・弁慶映画祭 実行委員会
実行委員長 中田 吉昭さん



おかいさん (茶粥)

和歌山県、奈良県、三重県で昔から毎日のように食されたお粥です。ほうじ茶や番茶を入れた茶袋を煮出し、米を入れて炊くのが一般的で家庭によって季節の食物（さつまいも、そら豆、かぼちゃなど）を入れたりします。



ちゃんぼん

漁師町である江川地区には、お好み焼屋が多く点在し、昔からあるメニューの一つに「ちゃんぼん」があります。2種類以上のものを合わせることを「ちゃんぼんする」といい、焼そばと焼うどんをミックスしたものを、そのまま「ちゃんぼん」というメニューにしています。近年B級グルメとして注目され、来訪者からも人気があります。

ゆず 柚子もなか

白豆にすりおろした柚子の皮を混ぜた柚子あんを、香ばしい皮に包んだ一口サイズの小さな「柚子もなか」が出来たのは明治40年です。以来、周辺地域にも広がり、今では紀南銘菓の一つになっています。



さんま寿司

晩秋から初冬にかけて紀伊半島沖を南下する「さんま」は、適度に脂が落ち、お寿司にぴったりな味わいになります。柚子やダイダイの果汁をたっぷり使った酢に浸して作るさんま寿司は、祭りや正月料理に欠かせません。

紀州田辺の食文化

1年を通して温暖な気候と黒潮の恵みを受ける田辺市は、海の幸、山の幸が豊富な地域です。そこに歴史と産業、人々の暮らしが重なり、独特の食文化が育まれ受け継がれてきました。それらは正月や祭りといった特別な日だけのものもあれば、毎日の食卓にのぼるものまで実に多彩。それぞれに人々の知恵と物語が詰まっています。

また、田辺市では、地元産品の販路拡大、販売促進のために「田辺市地域ブランド推進協議会 紀州田辺とっておき」を設置し、各種イベント等を通して田辺市と産品の認知度を高めることにより、地域産業の育成と発展に取り組んでいます。



ぼうり

「ぼうり」とは、里芋の親芋の煮物のことで、鮎川(小川地区)の郷土料理です。鎌倉時代に、後醍醐天皇の皇子、大塔宮護良親王は、鎌倉幕府の追及を逃れたこの地で村人に餅を所望しましたが、村人たちは親王とは知らず、掬によりそれを断りました。のちに、その人が、親王であることを知った村人たちはその行いを恥じて、600年間正月に餅をついて食べることをやめ、「ぼうり」を食べるようになりました。

Blessed by a warm climate and the Kuroshio Current, Tanabe enjoys abundant harvests from the mountains and large hauls from the sea. It is taking steps to increase recognition of its regional food products.



なんば焼・ごぼう巻

エソ・グチなどの白身魚を主原料とする「南蛮焼」は、蒸し蒲鉾ではなく「焼き蒲鉾」です。ブリッとした歯ごたえが特徴で、江戸時代、魚の保存方法の一つとして考えられたと伝えられています。「ごぼう巻」は、柔らかく茹でたごぼうを魚のすり身でまとめ、魚皮を何枚も巻きつけてこんがり焼き、甘いタレに漬けて仕上げる田辺の名産の一つです。

田辺グルメを 召し上がれ

めはり寿司

昔から山仕事の弁当といえば、高菜の漬物でおにぎりを包んだ「めはり寿司」でした。目を見張るほど大きく、目を見張るほどおいしいことなどから付いた名前といわれています。今では各家庭によって白米や酢飯、また高菜の軸の部分を刻んだものを入れるなど、大きさや形もいろいろあります。



最高級ブランド

「紀州南高梅」を守り、

その価値を高めていく



全国でもトップクラスの梅生産量 梅干しと梅酒を国内外にアピール

梅は、栽培、加工、流通など、それに関わる関係者も多く、産業全体の売上高は田辺市を大きく支えています。また、梅の加工から販売まで一括で行う梅加工業者は、数百家を数えるまでになりました。

田辺市の年間平均気温は、16〜17度と温暖で、降水量も多く、また幅広い土壌に適合する梅の特性から、全国有数の産地を形成しています。梅干しなど、様々な用途に適した「紀州南高梅」をはじめ、果実が美しく、青いダイヤと呼ばれる「古城」、また、新品種の育成が盛んに行われている中、紫色の果皮が特徴の新品種「パープルクイーン」が誕生するなど、高品質な梅の栽培が盛んに行われています。

紀州ブランドの認知度を更に高めるため、生産者をはじめ、JA、梅加工業者、行政が協力し合い、産地振興に取り組んでおり、近年では、梅干しだけでなく、梅酒の製造販売が年々活発化しており、国内外に販路が広がっています。そのような中、田辺市から梅酒や梅干しの消費を喚起させようと、「田辺市紀州梅酒による乾杯及び梅干しの普及に関する条例」が制定されました。

JA紀南生産販売連絡協議会
委員長 野村 勉さん

梅の栽培は、天候や自然環境に左右され、収穫するまでの出来高の予想は困難ですが、安定生産できるよう努力しています。田辺市の最大の産業でもあり、産地を守るためには横のつながりを強化し、皆で知恵を出し合い頑張っていかなければと思います。農産物を安定させ、流通のシステムを考え、後継者を育てていくことが最大の課題です。

紀州田辺梅干協同組合
理事長 不動 正巳さん

梅は、田辺市の主力産業であると考えています。組合では、「流通」「PR」「コンプライアンス」を最重要課題として、行政、JAと共にオール田辺で、ブランドがより一層高められるよう頑張っています。生産者を守り、産地を守りながら、継続的に消費を促すことで、これからは雇用と経済を維持・発展させたいと考えています。





田辺市柑橘振興協議会
会長 小谷 真一さんご夫婦

潮風と太陽の恵みを たっぷり受けて育つ 紀州田辺のみかん

1年を通じて約80種類の柑橘を収穫

田辺市のみかんは、紀南特有の温暖湿潤な気候を生かして栽培されています。温州みかんをはじめ、ポンカン、デコボン、はっさく、清見オレンジ、ネーブル、三宝柑などの晩柑類まで豊富な品種が栽培されており、ほぼ1年を通じて約80種類のみかんが収穫されています。

一般的に「みかん」と呼ばれるのは「温州みかん」で、皮は薄くむきやすく、ほどよい甘さと酸味があることから、昔から親しまれています。その中で9月から収穫が始まるのが「極早生みかん」で、青さが残り酸味が少し強いのですが、すっきりした風味とさわやか

な香りが特徴です。10月頃からは「早生みかん」へと移行していき、その中でも、年末年始にかけて早生みかんをじっくり樹上で熟させた「木熟みかん」は、酸っぱさや和らぎ、甘味が一気に増し、コクのある味になります。温州みかんが終わる頃から出荷が始まるのが晩柑類で、様々な品種の特色ある味を楽しむことができます。

紀州田辺のみかんは、栽培に適した気候であることに加え、生産農家の絶え間ない努力によって良質の柑橘類が生産され、全国トップクラスの品質を誇っています。

田辺市柑橘振興協議会の小谷真



一さんは、「田辺市のみかん農家さんは、やりがいを感じ、こだわりを持ってみかんづくりをしている人が多い」と言います。試験場でも新品种の研究をしており、そこには農家の方たちの経験と知識が必要で、共に協力を惜しまず取り組んでいます。柑橘栽培は、後継者が多く育っており、今後若い人たちの活躍が更に期待できる産業でもあります。

みかん



Tanabe's citrus cultivation takes advantage of the region's uniquely warm and wet climate. Approximately eighty varieties of citrus are grown throughout the year. In many communities citrus cultivation is passed down through generations, and has been entrusted to its capable new youth generation.



イサキ

田辺市は「イサキ」の漁獲量が県内1位を誇っており、これをもっと多くの人に食べてもらおうと「紀州いさぎ」としてブランド化に取り組んでいます。「紀州いさぎ」は、手釣りという漁法で一尾一尾丁寧に釣り上げ、船倉で活かしたまま帰港し、水揚げ前に活けじめすることにより、抜群の鮮度で出荷しています。



ヒロメ

「ヒロメ」は、ワカメと同種同属の海藻で、全国でもごく限られた海域にしか分布していない非常に希少な海藻です。柔らかくてとろみがあり、しゃきしゃきとした独特の食感・歯ごたえが特長で、地元では春を告げる海藻として高い人気があります。また、「紀州ひろめ」という名称で、ブランド化に取り組んでいます。



シラス

伝統の小曳網漁法は、広げた網を少しずつ人の手でしぼるのでシラスの体を傷つけない漁法です。現在は効率的なバッチ網が主流ですが、磯間地区では小曳網漁法での漁も行っています。

田辺周辺の海域は、黒潮の恵みにより水産資源の種類は多く、一本釣り漁業やまき網漁業、船曳き網漁業などが行われています。主な魚種はアジ、サバ、シラス、イサキ、カツオで、他にもイセエビやイカ等の水産動物や海藻のヒロメなどがあります。

これまで比較的漁業条件に恵まれた地域ではあったものの、近年、漁業を取り巻く環境は、厳しさを増しており、漁獲量の減少や従事者の高齢化と後継者不足が課題となっています。

水産資源の維持と増大を図るため、効果的な放流事業等を実施し、「つくり育てる漁業」を推進するとともに、販路拡大を通じて、漁業後継者の育成確保と漁業者及び

漁業協同組合の経営基盤の安定化に取り組んでいます。

また、高付加価値化を図るための加工品や料理の開発などを行い、新たな販路開拓による消費の拡大を目指しています。特に初夏に旬を迎える「イサキ」と海藻の「ヒロメ」のブランド化を積極的に推進しています。

黒潮の恵みをブランド化し 安定供給に取り組む

The Kuroshio Current bestows Tanabe City with many aquatic resources. To increase the value of these resources, new dishes and processed foods are being developed, as well as new markets to increase their consumption.



龍神村森林組合 代表理事組合長
眞砂 佳明さん

林業の後継者不足は長年の課題ですね。1ターンの雇用が生まれた時期もありましたが、子どもの頃から山に入り、まきを割ったりして暮らしてきた地元の人たちとは、ベースも違い、苦労されているのが現状です。現場で働く人のほかにも、山主（森林経営者）の後継者がいないことも深刻な問題です。しかし、これらのこともできるだけ早く解決できるように、多くの方々の力を借りながら努力しています。人も技術も後世につないでいかなければと考えています。龍神材の良さを多くの人にアピールしていきたいですね。

High quality cedar and cypress trees provide economic support to the entire region. Following a slump after the introduction of foreign lumber, Kishu lumber has gathered renewed attention in recent years. The Ryujin Forestry Union is working on branding this lumber, and has joined forces with the government to advance the forestry industry.

紀州木の国と呼ばれるほど良質な杉や檜は、地域全体の経済を支えてきました。高度経済成長期には多くの人が林業に関わり、基幹産業として栄えていきましたが、昭和39年以降、安価な外材が大量に輸入されるようになり、地域の林業は、次第に低迷していききました。

しかし、近年、再び紀州材が、注目を集めるようになってきました。国内の建築物では、その気候風土で育った木材が適していることが再認識され、また年輪の詰まった木目が特徴の紀州材は、地震などの災害にも強いということが広く知られるようになったことも要因の一つといわれています。

龍神村森林組合は、昭和40年代から地域ぐるみで「龍神材（紀州材）」のブランド化に取り組んでいます。木目と色合いが美しい木材として高く評価され、また森林組合が原木市場を持つっており、伐採で流通できることも大きな強みになっています。

宝物は、持っているだけでは意味がありません。国民一体となって林業の発展に向け、取り組んでいます。



紀州材使用住宅

強く美しい良質の紀州材を育て、 流通させる



田辺市文化交流センター「たなべる」



田辺市立美術館



熊野古道なかへち美術館



田辺市立武道館



田辺市立弓道場



学社融合の一環で子どもたちが手書きの防災マップ・パンフレットを作りました。

学社融合の推進と充実を

核家族化や少子高齢化が進み、地域のコミュニケーションが薄れつつある時代だからこそ、子どもたちと地域のひととの触れ合いや自然体験、ものづくり体験からの「学び」が必要とされています。

田辺市では、「基礎基本の徹底」と共に「学社融合の推進」を教育行政基本方針の最重要項目としています。

各地区の公民館や地域の教育資源を活用し、生き生きとした子どもに育つよう、高齢者やボランティアなど地域の人たちが、見守り、関わっています。

「学社融合」には、学校、家庭、地域のつながりを大切にし、連帯感を深めるとともに、地域に誇りを持つ子どもに育てるという目標があります。

す。例えば、地域の人に教えてもらいながら農業体験をすることで、知識や技術、知恵を学ぶだけでなく、農産物を大切にするにもつながります。また、自然体験をすることで、環境問題への意識や環境保全のために何が必要なのかという気付きを得ることが出来ます。

それぞれの地域の特性を生かした活動の中で、世代の違う人たちとの触れ合いから社会的なマナーを身に付ける子どもたち。また、高齢者にとっては、これまでの経験を子どもたちに伝えることを生きがいとして元氣になつていく人が増えています。

地域に誇りを持って未来を考える子どもを育てることは、まさに地域ぐるみの教育といえます。

Under Tanabe's community-wide education system, schools, families, and members of the community cooperate to raise forward-looking children proud of their communities.



学習支援ボランティアのひらがな学習



学習支援ボランティアの昔遊び



三四六総合運動公園 平成27年完成予定

共に支え合い、 つながりを持つ地域福祉



寄り添う支援活動

田辺市では、市民一人ひとりが住み慣れた地域の中で、共に助け合い、安心して暮らせる福祉のまちづくりを進めるため、地域における各種民間団体の先導的な保健福祉活動を促進するとともに、高齢者や障害のある人を対象に様々な地域福祉事業を実施している田辺市社会福祉協議会や、地域福祉の担い手である田辺市民生児童委員協議会と連携を図るなど、地域住民、福祉関係活動者と行政の協働により、地域福祉の推進に取り組んでいます。

また、障害の有無や年齢などに関わらず、一人ひとりが自立し、互いの個性や個性を尊重し、支え合い、住み慣れた地域で生涯を通じて安心して暮らすことができる共生社会を実現するため、JR紀伊田辺駅や市役所本庁舎などの公共施設のバリアフリー化のほか、心理面等でのバリアフリーやユニバーサルデザインの導入にも取り組んでいます。

中でも、田辺市社会福祉協議会は、

行政との役割分担の下、市民に対する保健福祉の総合相談窓口としての機能を発揮しています。「要援護者の見守り・声掛け活動」のほか、「生活福祉資金貸付」「福祉サービス利用援助事業」は、近年、利用が増えており、平成23年に設置した「常設型地域リビングよりみちサロン いおり」は、子どもから高齢者、障害のある人の居場所づくりのほかにも福祉やボランティアの窓口機能として活用されています。

※1バリアフリーとは、高齢者、障害のある人などが社会生活をしていく上で障壁となるものを除去することです。物理的、社会的、制度的、心理的な障壁、情報面での障壁など、全ての障壁を除去するという考え方を指します。

※2ユニバーサルデザインとは、あらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種などに関わらず、多様な人々が利用しやすいよう、都市や生活環境をデザインする考え方を指します。

※3要援護者の見守り・声掛け活動とは、家族や近所の人の連絡先、救急に必要な事項を記載した緊急連絡カードを、家庭に備え付けておくように啓発するものです。高齢者世帯や障害のある人などへの見守り、声掛け活動の一つです。

※4生活福祉資金貸付とは、安定した生活を目的として低所得者、高齢者、障害のある人などを対象に資金の貸付けと必要な援助指導を行うものです。経済的自立や生活意欲の助長促進、在宅福祉と社会参加の促進を図るものです。

※5福祉サービス利用援助事業とは、判断能力が十分でない高齢者や知的障害及び精神障害のある人の金銭管理と、日常生活のお手伝いを目的として定期的に利用者の方々を訪問し、暮らしの支援を行うものです。



よりみちサロンいおりで開かれている、しゅくだいくらぶ

高齢者の笑顔があふれるまちに

老人福祉において田辺市が最も力を入れて取り組んでいるのが、介護予防です。高齢者人口が増え続ける中、加齢によって生じる心身の変化に向き合い、高齢者自身が有する能力を可能な限り損なわずに、明るく元気に自立した日常生活を送っていただくような取組をしています。

転倒予防のために、自宅でできる体操や筋力トレーニングを身に付けるための教室、健康な身体を維持するための栄養教室などを定期的に開催しています。



わかわか教室

In its elderly welfare system, Tanabe puts most of its energy into preventative care.

障害のある人のバックアップ体制を強化

田辺市の障害者福祉は、早くから社会福祉法人等の民間の活動を行政が支援する形で取り組まれてきました。

そのため、現在では、県内でも事業所の整備が進んでいる地域となり、全国的に高い評価を受けている法人も育ち、市内だけでなく、他地域からの利用者も多くなっています。

また、社会福祉協議会、民間事業者及び行政の連携の下、障害の種類にこだわらない相談窓口を設置し、障害のある人の地域生活をバックアップする体制の強化を図っています。

今後も更に充実した体制整備に取り組んでいきます。



ふれあい文化祭

Tanabe's welfare system for the disabled holds national esteem for its support of private organizations' activities.

安心して子育てができるまちに

少子化対策の一つとして、安心して子どもを産み、育てることができると環境づくりが重要です。このようなことから、待機児童をなくす取組や、障害のある子どもの保育、延長保育など、保護者が安心して働ける幅広い子育て支援が求められており、様々な課題を解決できるよう行政と民間の連携を強めています。

今後も各種子育て支援事業をはじめ、学童保育の推進など、更に充実した環境づくりに取り組んでいきます。



青空広場

In the face of the country's declining birthrate, Tanabe strives to create an environment where parents can raise their children with peace of mind.

The Tanabe City government cooperates with communities and private social welfare organizations in its efforts to promote social welfare. Its goal is to create an environment where all people can coexist in peace, regardless of disability, age, race, or gender.



南紀田辺インターチェンジ・田辺西バイパス
阪和自動車道（近畿自動車道紀勢線）のインターチェンジ周辺の整備により、高速道路の乗り口、芳養方面、市街地方面へと通じる道路ができ、渋滞の緩和と時間短縮が実現しました。



一般国道425号 福井バイパス
龍神村柳瀬～福井間を結ぶバイパスの完成により、龍神地域の観光振興や災害時の緊急輸送の強化につながりました。



一般国道168号 本宮道路
本宮町大居～土河屋間を結ぶバイパスです。大型車両の対向ができない場所もありましたが解消され、観光客の利便性も向上しました。



都市計画道路 元町新庄線
海蔵寺地区区間の完成により、これまでの交通難所が解消されるとともに、JR紀伊田辺駅へのアクセス機能が強化され、中心市街地の利便性が向上しました。

新庄総合公園
子どもや高齢者をはじめとした多くの市民が、安心して楽しめる公園として充実した維持管理に努めています。



環境整備

JR紀伊田辺駅前広場
送迎用自家用車の停車による混雑の解消や公共交通機関の機能的な配置による快適な駅づくりを目的として、平成25年にJR紀伊田辺駅前広場を整備しました。

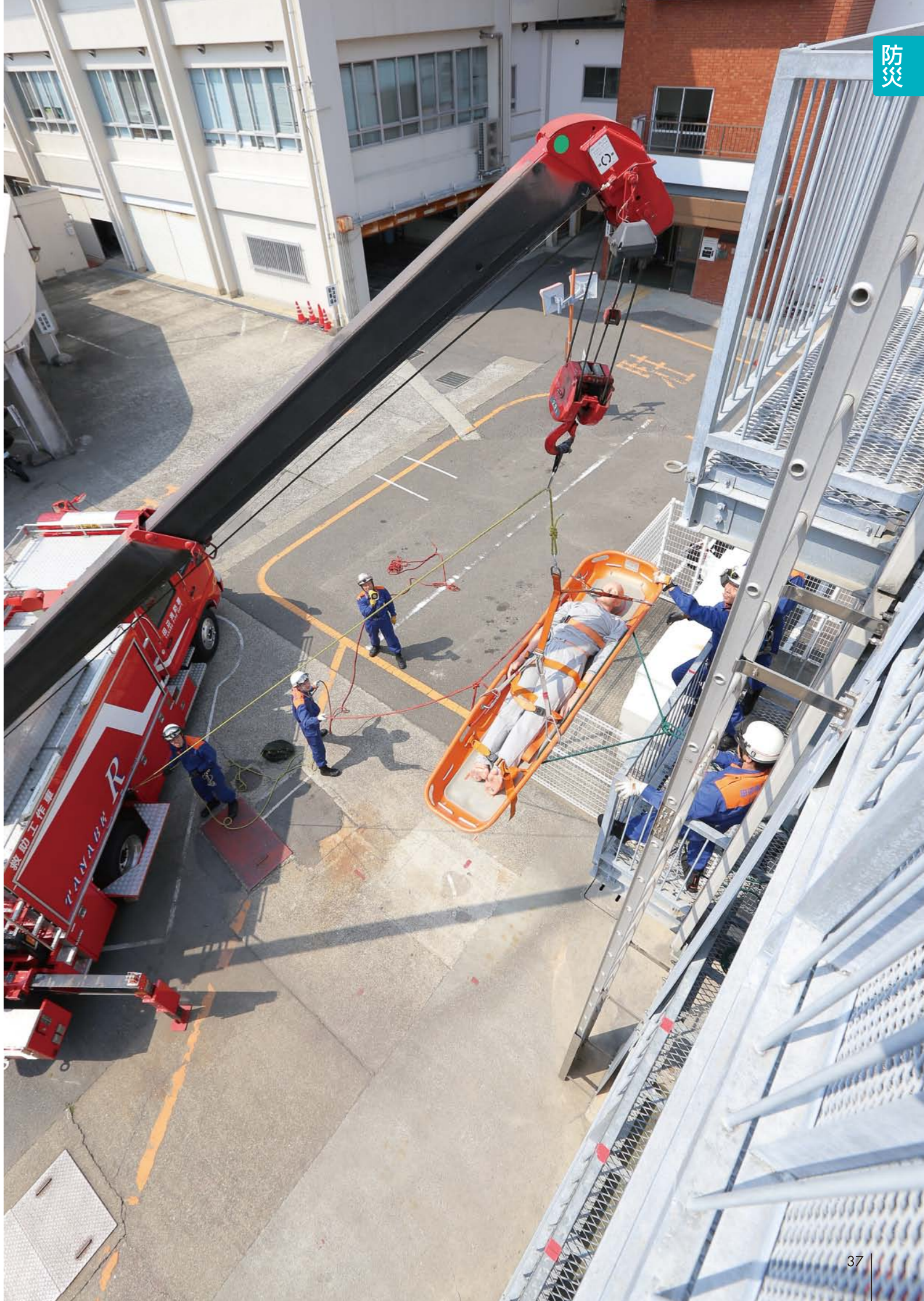
田辺市は、集落が河川の流域ごとに分散した特有の地域構造を抱えており、これらの地域間を結ぶ道路整備や交通弱者のための効率的な公共交通サービスの提供が必要で、早急に取り組むべき課題でもあります。

その中で、空洞化する市街地を再生するため、中心市街地の魅力や利便性の向上を図るとともに、便利で機能的なまちづくりを進めるためにも、道路整備は欠かせません。日常の利便性だけでなく、万が一の災害発生時への対応、そして紀南地域の経済振興に向けて整備に取り組んでいます。

また、市民にとって憩いの場であるのが、23ヘクタールの敷地を持つ新庄総合公園です。「花と芸術」「水と森の野外音楽堂」「山と緑と花の谷」をテーマとして整備しました。ここでは、自然環境に親しみながら文化的活動を楽しむことができ、家族連れや様々な市民イベントにも活用されています。

Tanabe's servicing of its roads contributes to the convenience of life in the city, promotes the regional economy, and improves disaster response capability.

暮らしやすさを
安全のため
環境整備を続けます



市民の命を守るために 災害に強いまちづくりを推進

田辺市では、災害から市民の生命や身体、財産を守るとともに、被害の軽減を図るため、「田辺市地域防災計画」に基づき、災害予防、災害応急対策、災害復旧など総合的かつ計画的な防災行政に取り組んでいます。

災害に強いまちづくりを推進するためには、自助・共助・公助のそれぞれにおいて災害への対応力を高め、連携することが重要で、自治会や自主防災組織による自主的な防災活動を活性化させるため、コミュニティの強化をこれまで以上に図っていく必要があります。

その中でも災害時の避難行動などが困難であることが予想される高齢者や障害のある人、妊婦などを災害から守るため、平成21年度から災害時要援護者（避難行動要支援者）名簿を作成し、各自治会に提供しています。

また、広域連携の強化も重要で、災害時における周辺広域相互応援体制の更なる充実を図るほか、全国の消防機関で組織する緊急消防援助隊に積極的に参加するとともに、南海トラフ巨大地震の発生を想定した受援体制の整備を進める必要があります。

さらに、田辺市は、広大な市域のほとんどが山林であり、また、年間降水量も多く、県内有数の主要河川を複数抱えることから、土砂災害対策や河川の洪水対策についても県との連携を図りつつ、防災学習会を開催するなど、市民にも広く認識してもらえるように啓発活動にも取り組んでいます。



消防団女性団員は、火災予防の広報活動や防火啓発活動、住宅防火診断、応急手当普及啓発などを主体に活動しています。



熊野本宮大社で消防本部と自主防災組織が、合同訓練を実施しました。



毎年1月5日の出初め式は、消防本部と消防団合同で行っています。

Tanabe City, in an effort to protect its citizens' lives and assets from disaster, and mitigate damage from said disasters, is engaged in comprehensive and systematic disaster prevention, emergency response, and restoration programs. Additionally, in order to create a city of individuals competent in handling disasters, it is taking steps to enhance cooperation between resident associations and volunteer disaster prevention organizations.



橋谷避難広場
昭和21年12月21日に発生した昭和南海地震で被害の大きかった新庄町橋谷地区に、津波災害時に緊急的に一時避難する場所として平成20年3月に約2,500㎡の広場を整備しました。

万が一に備えて

津波浸水ハザードマップ（津波浸水予測図）を基に、災害発生時にできるだけ高い場所へ避難するという意識の徹底を図るとともに、避難路の整備や津波避難ビルなど一時避難場所の選定、海拔表示板や夜間避難のための誘導灯の整備など、安全かつスムーズに避難するための取組を進めています。

また、自治会や自主防災組織をはじめ、学校や保育所、幼稚園も専門家の指導の下、積極的に避難訓練を重ねています。



保育園児、幼稚園児も災害時の避難訓練に取り組んでいます。

Under the direction of professionals, even schools, kindergartens and day care centers perform disaster drills.

未来を見据え、 より良い市政を 進めるために



市議会議員選挙は、市民生活に直結した基礎自治体である田辺市の将来を託す最も身近な選挙の一つです。人口減少、少子高齢化、災害に強いまちづくりなど地域における重要課題が山積する中、住民の直接投票により選出された議員で構成された市議会の果たす役割は、非常に大きいものがあります。

田辺市議会は、市長の提案する予算、条例などを審議、議決するとともに、市政に対する一般質問などでも市が進むべき方向等を導き出す役割があります。一方、市長は市議会の決定に沿って実際のまちづくりを進めていきます。

市議会には、毎年3月・6月・9月・12月に定期的に招集される「定例会」と、必要に応じて招集される「臨時会」があります。会期中は、全議員が出席する本会議と、市の仕事全体を大きく3つに分け、専門分野ごとに設置された常任委員会、また必要に応じて設置されている特別委員会などが開かれます。

また、議会広報機能の強化を図り、議会活動を広く市民の皆さんに情報発信するための広報常任委員会を設置しています。

議会に提案された議案は、本会議における質疑を経て、各常任委員会に付託され、慎重な審査が行われた後、本会議において採決されます。

市議会と市長は、お互いに独立した立場から協力し合って市民生活の向上に努めています。

Bills proposed in City Council first go through questioning in plenary session. After careful examination in standing committee they return to plenary session for voting. The City Council and mayor cooperate in their independent positions to improve living conditions for Tanabe's citizens.



田辺市の市章 平成17年10月1日制定



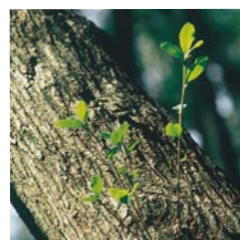
この市章は、大正10年図案を懸賞募集し、田辺町章として選定したものを旧田辺市が引き継いだもので、中央部は、田辺の「田」を表し、輝く星座のごとく田辺市の将来のますます発展することを象徴しています。

田辺市民憲章 平成17年10月1日制定

わたしたち田辺市民は、美しい海・山・川の豊かなめぐみに感謝し、先人たちが築きあげた歴史と文化をうけつぎ、自治と福祉のこころにあふれたまちをつくるため、ここに市民憲章をさだめ、力を合わせてその実行につとめます。

1. 豊かな自然を大切に、調和のとれた美しいまちをつくります。
2. 歴史と伝統に学び、教養を高め、文化のかおるまちをつくります。
3. スポーツに親しみ、心身ともに健康で、希望にみちた楽しいまちをつくります。
4. 人権を守り、たがいに助け合い、明るく平和なまちをつくります。
5. 時と資源を生かし、働くことを喜び、共に栄えるまちをつくります。

田辺市の木・花・鳥 平成17年10月1日指定



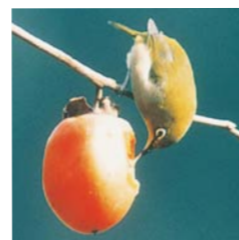
「うばめがし」

うばめがしは、海岸沿いから山間部までこの地に広く自生しており、荒地や傾斜地でも生育する力強さを持ち、名高い備長炭の原木として知られています。



「梅」

梅は、この地に多く栽培されており、その花は早春のころ元気よく咲き、香りは人々の心をあたたかく包みます。



「めじろ」

めじろは、この地に広く生息し、花を渡り、実を求める姿は美しく、その鳴き声はやさしさにあふれています。



田辺市が有する広大な市域には、世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』に登録されている「熊野本宮大社」や「熊野古道」、日本三美人の湯として知られる「龍神温泉」、日本最古の湯といわれる「湯の峰温泉」などの温泉郷、そして梅やみかん、紀州備長炭、新鮮な魚介類等の温暖な気候や地勢に育まれた特産品など、人々の心と身体を癒やす魅力的で多種多様な地域資源が存在しています。

また、世界的博物学者である南方熊楠翁が、熊野の玄関口である城下町田辺に居を構えた理由を「至って人気よろしく、物価安く静かにあり、風景気候はよし」と日記に書き記したように、当地は、美しい海・山・川の豊かな大自然に恵まれ、さらには、古の熊野詣での時代から現在に至るまで、全ての人々をおおらかに受け入れてきた風土があります。

田辺市では、こうした多種多様な地域の特性を大切に、それぞれの魅力を最大限に生かし、そして、その価値を高め、創造しながら、まちの将来像である「自然と歴史を生かした新地方都市 田辺」の実現を目指しています。あわせて、安心・安全・やさしさを基軸に、市民の皆さんが心豊かに暮らせ、誇りが持てるまちの確立に取り組んでいるところです。

この市勢要覧では、田辺市の豊かな自然や魅力的な地域資源を数多く紹介しています。この要覧を通して、田辺市の魅力を発見され、そして、私たち市民が誇りと感じる豊かな郷土を実感していただければ幸いです。

田辺市長 真砂 充敏

Tanabe's rich and expansive environment soothes the body and soul, and includes onsen (hot spring) such as Yu-No-Mine, said to be Japan's oldest, and Ryujin, known as one of Japan's three famous beautifying onsen. The city's natural features and warm climate have provided it with ume (Japanese plums), mikan (Satsuma oranges), Kishu Binchotan charcoal, fresh seafood, and other specialty products. Its Kumano Hongu Taisha Grand Shrine and Kumano Kodo Pilgrimage Routes are registered as World Heritage Sites and add to the diversity and charm of the region.

World-renowned naturalist Kumagusu Minakata recorded in his diary the following reasons for choosing to live in Tanabe: friendly people, low cost of living, a quiet atmosphere, and a nice climate and scenery. Indeed, our city is blessed with beautiful mountains, ocean, and rivers. And since the ancient days of the Kumano Pilgrimage, Tanabe's citizens have always been welcoming and generous to others.

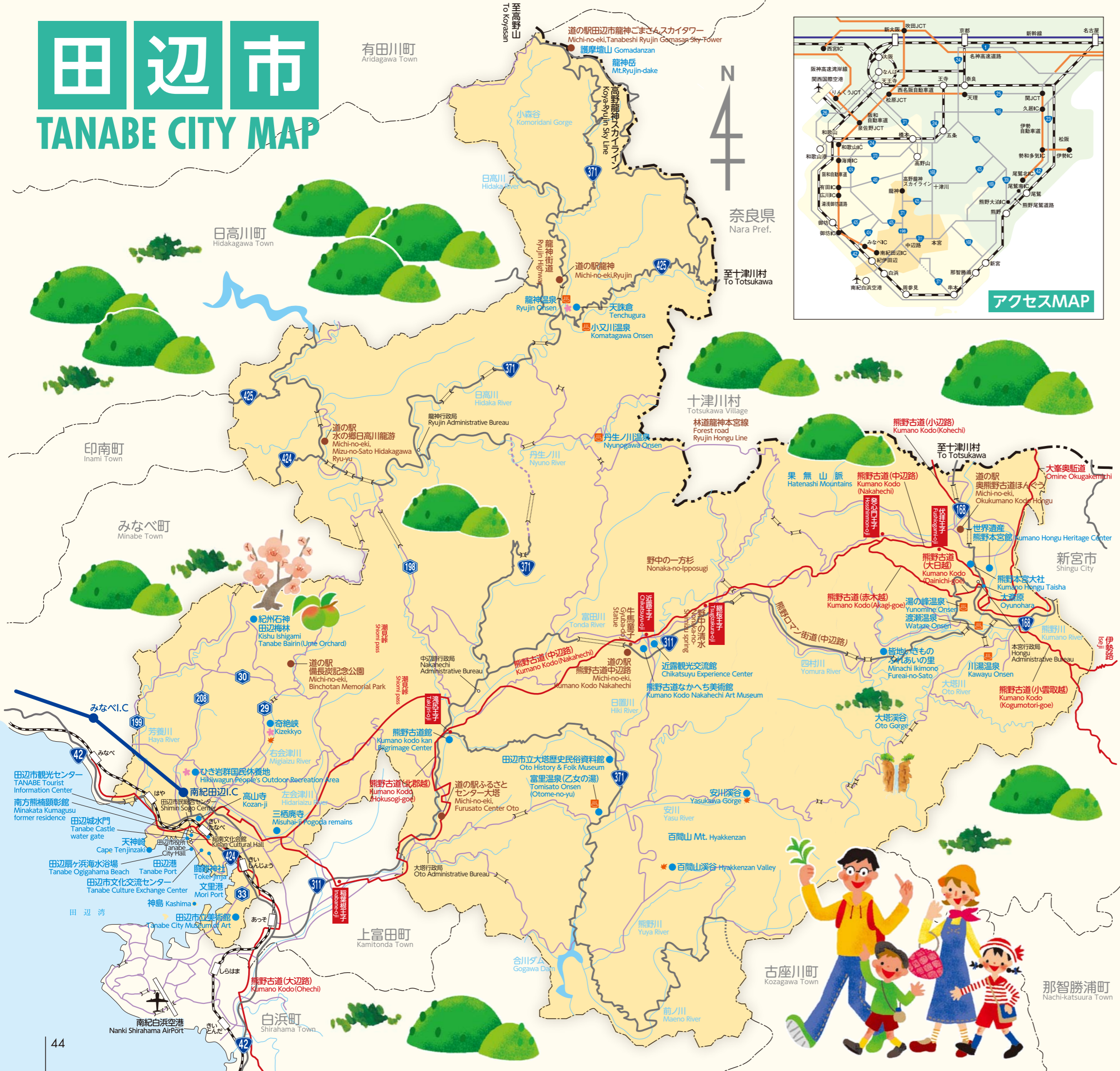
In Tanabe we cherish the diverse qualities that set our city apart. By utilizing these qualities to the greatest extent, we seek to realize our vision of Tanabe as a "new major provincial city." We are working hard to establish a city of proud citizens free to lead rich, safe, peaceful lives together in kindness.

This municipal guidebook introduces Tanabe's rich environment and plethora of charms. I hope that after reading it you will be able to understand why we the citizens of Tanabe have such pride for our city.

Mitsutoshi Manago,
Mayor of Tanabe City

田辺市

TANABE CITY MAP



主な年間イベント



南国紀州の雪遊び

- 1月**
- ・野中の獅子舞(中辺路町)
 - ・南国紀州の雪遊び(龍神村)



紀州石神田辺梅林

- 2月**
- ・粥占い神事(稲成町)
 - ・紀州石神田辺梅林開園(上芳養)

- 3月**
- ・近野山間マラソン(中辺路町)

- 4月**
- ・熊野本宮大社例大祭(本宮町)

- 5月**
- ・御田植祭(稲成町)

- 5月下旬~6月上旬**
- ・ホテル観賞会(長野・伏菟野)



御田植祭

- 7月**
- ・大塔鮎釣り大会(日置川上流)
 - ・扇ヶ浜海開き(扇ヶ浜)
 - ・ぎおんさんの夜見世(新庄町)
 - ・田辺祭(東陽 鬮雞神社)
 - ・熊野古道清姫まつり(中辺路町)



熊野古道清姫まつり

- 8月**
- ・ヤーヤーまつり(中心市街地の商店街)
 - ・大塔地球元気村(鮎川)
 - ・下川上の流れ施餓鬼(下川上)
 - ・八咫の火祭り(本宮町)



丹度祭

- 10月**
- ・弁慶まつり(中心市街地 扇ヶ浜)
 - ・杵荒神社奉納祭(中辺路町)



弁慶まつり

- 11月**
- ・熊野古道絵巻行列(中辺路町)
 - ・芳養八幡神社秋祭(中芳養)
 - ・農林水産業まつり(扇ヶ浜)
 - ・住吉踊(長野)
 - ・上野の獅子舞(下川下)
 - ・野中の獅子舞(中辺路町)
 - ・小家神楽(龍神村)
 - ・翔龍祭(龍神村)
 - ・万呂の獅子舞(中万呂)
 - ・こだま祭り(本宮町)



仙人風呂

- 12月**
- ・龍神温泉木の郷マラソン大会(龍神村)
 - ・仙人風呂オープン(本宮町)

